

## 平成29年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成30年5月

姫路市（兵庫県）

○計画期間:平成27年4月～平成32年3月(5年0月)

### I. 中心市街地全体に係る評価

#### 1. 平成29年度終了時点(平成30年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、平成27年3月27日に第2期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、「人々が行き交いまちの鼓動が聞こえる城下（まち）」を基本テーマに、「行きたい城下（まち）」「にぎわう城下（まち）」「住みたい城下（まち）」「市民が主役の城下（まち）」の4つの基本方針のもと、同計画に掲げる43事業に取り組んでいる。

本市の中心市街地をめぐる現状としては、大天守の保存修理事業を終えた世界文化遺産・姫路城のグランドオープンから3年が経過し、姫路城による観光客の集客効果は、落ち着きつつあり、平成29年度の年間来城者数は、182万人とグランドオープン年度の6割程度となった。しかし、海外旅行サイトの日本の城ランキングで2年連続1位を獲得するなど、日本有数の観光施設として、観光客の誘致に大きな役割を果たしている。姫路駅周辺では、姫路の玄関口となる姫路駅北駅前広場が市民や観光客の憩いと交流の場として定着し、イベントも盛んに行われている。さらに、キャスティ21コアゾーン整備事業についても、都市型ホテルなどが順次開業しており、平成30年秋頃にすべての施設が開業する予定であり、姫路駅前にさらなる賑わいや人の流れをもたらすことが期待できる。

また、更なる小中一貫教育の充実を目指し、本市初の義務教育学校となる白鷺小中学校が平成30年4月1日に設置された。先進的な教育の取り組みは、同校の校区と重なる街なかの魅力を支えに高め、居住者数の増加に寄与するものと考えている。

こうした街なかの活性化に向けた明るい兆しが見受けられる一方で、商店街の空き店舗数は一進一退を繰り返している。特に街なかの中心地に位置する百貨店が、平成30年2月28日に閉店したことは、周辺の商店街に大きな影響を及ぼすと考えられるため、その影響の把握を急いでいる。

中心市街地の現状として、ハード整備が順調に進捗する一方、商店街をはじめとする中心市街地を取り巻く環境は、依然として厳しい状況となっている。姫路駅周辺の賑わいや人の流れを街なか全体へ波及させるための施策に、引き続き官民挙げて取り組む必要があると考えている。

現在、ハード事業として姫路駅から姫路城までをつなぐ大手前通り再整備事業に着手している。また、今後、コアゾーンよりも東に位置するキャスティ21イベントゾーンにおいて、文化コンベンション施設等の整備事業も進むことから、より一層、市民や民間事業者と連携を深め、ハード事業だけではなく、ソフト事業の充実を図り、街なかの賑わいと活力の増大を目指す。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(中心市街地区域)	平成 26 年度 (計画期間開始前年度)	平成 29 年度 (フォローアップ年度)
人口	8,904人	9,912人
人口増減数	226人	650人
社会増減数	該当区域単位の集計情報なし	該当区域単位の集計情報なし
転入者数	該当区域単位の集計情報なし	該当区域単位の集計情報なし

※人口は当該年度1月1日(基準日)の数値。増減数については、基準日までの1年間の変動数。

**2. 平成 29 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

姫路駅周辺整備事業やキャスティ21コアゾーン整備事業を始めとした主要事業の進展により、姫路駅周辺エリアにおける商業施設のオープンや、来街者の回遊性が向上している点は一定の評価ができる。しかし一方では、長きにわたり街なかに活気をもたらしていた、百貨店の閉店など、新たな課題も発生しており、依然として中心市街地を取り巻く環境は厳しいと認識している。今後さらに進んでいくハード整備を追い風とし、新規開業施設から街なかへの人の流れの創出や、駅前広場や大手前通りなど公共空間の利活用推進など、街なかの賑わいづくりを推し進めてほしい。そのためにも、街なかでまちづくり等の様々な活動をする市民・団体等がより一層連携し、一体となって事業展開をすることができる体制の構築を目指すとともに、タウン・エリアマネジメントの運営に向けた組織及び人材の育成に官民一体となって取り組む必要がある。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
新たな魅力の創出と移動環境の向上による来訪者数の増加	歩行者・自転車通行量	63,639 人/ 日 <small>(H22～25 平均値)</small>	82,000 人/ 日 <small>(H31 年度)</small>	64,014 人/ 日 <small>(H29 年度)</small>	①	②
新陳代謝の促進による街なか(商店街)の活性化	空き店舗数	36 店舗 <small>(H25 年度)</small>	28 店舗 <small>(H31 年度)</small>	36 店舗 <small>(H29 年度)</small>	③	②
多世代が快適・便利に暮らせる居住環境の向上	居住者数	8,797 人 <small>(H25 年度)</small>	8,894 人 <small>(H31 年度)</small>	9,975 人 <small>(H29 年度)</small>	①	①
市民が躍動できる仕組み・体制の構築	公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数	286 日/年 <small>(H25.9～H26.8)</small>	321 日/年 <small>(H31 年度)</small>	463 日/年 <small>(H29 年度)</small>	①	①
(補完指標)	中心市街地に対する市民の評価	42.7% <small>(H26 年度)</small>	50.0% <small>(H31 年度)</small>	50.3% <small>(中間評価: H29 年度のみ実施)</small>	①	①

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については、グランドオープンした姫路城による集客効果が落ち着きつつあり、全体として減少傾向にある。その一方で姫路駅周辺の新しい商業施設の開店に伴う集客効果のほか、コミュニティサイクル事業、姫路駅北駅前広場活用事業などの主要事業が順調に進捗していることもあり、調査日が荒天であったにもかかわらず基準値を上回っている。しかし、依然として目標値との差は大きく、計画記載の主要事業についても一定の目途がつきつつあることから、今後、大幅な改善は見込めない。

「空き店舗数」については、中心市街地商店街内の空き店舗への出店者に対する家賃補助等をはじめ、商店街以外での街なか創業者への支援制度による商店街の魅力づくりに向けた取り組みにより、昨年度の空き店舗数は改善していたが、平成 29 年度は退店数が新規出店数を上回り、基準値と同じ水準に後退している。

「居住者数」については、姫路駅周辺土地区画整理事業のほか、キャスティ 21 コアゾーン整備事業等の姫路駅周辺整備事業の進捗により、街なか居住の魅力が向上することで、引き続き民間マンションの建設が進むなど、基準値と比較して、大幅に増加している。

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」については、姫路駅北駅前広

場の利活用が定着し、週末だけではなく平日においても、多彩なイベントが行われるなど、依然として高い稼働率で広場の活用が図られており、基準値と比較して、大幅に増加している。

### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「歩行者・自転車通行量」(前回①)については、キャストィ 21 コアゾーン等、姫路駅周辺の新しい商業施設の開店に伴う集客効果のほか、コミュニティサイクル事業、姫路駅北駅前広場活用事業などの主要事業は順調に進んでおり、姫路駅周辺の歩行者等の通行量は増加している。その一方で、姫路城のグランドオープンから時間が経過し、姫路駅から姫路城方面への人の流れは減少している。また、街なかの中心地に位置する百貨店が閉店したことは、今後、歩行者等の通行量の見通しにも影響を及ぼすものと考えている。

指標とする数値は、基準値と比較すれば改善傾向にあるものの、依然として目標値との差が大きい状況である。計画記載事業の進捗状況を踏まえると、今後、大幅な改善は見込めないことから、②と評価した。

今後は、新たに整備された商業施設等から、商店街を含めた街なか全体へと人の流れを波及させるべくソフト面も含めより一層各種事業を推進し、少しでも目標値に近づけるよう取り組みを続けていきたい。

「空き店舗数」(前回③)については、中心市街地商店街空き店舗対策事業、街なか起業家支援事業などの取り組みにより、創業者の支援を継続して行っている。支援件数は堅調であるが、支援期間が終了した後に退店する店舗や、長年にわたり空き店舗のままで、テナントが入る様子のない店舗などもある。平成 29 年度は、空き店舗数も増加し基準値と同じ水準にまで後退しており、②と評価した。

今後は、現在実施中の各種事業と合わせて、創業時の広告費支援など、新たな取り組みを織り交ぜながら、引き続き空き店舗数の改善に向けて取り組んでいきたい。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P72～P79 参照

##### ●調査結果の推移



年	(単位)
H22 ～25	63,639 人/日 (基準年値)
H27	73,277 人/日
H28	72,417 人/日
H29	64,014 人/日
H30	
H31	82,000 人/日 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査

※調査月：平成 29 年 4 月 29 日実施、5 月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内 7 地点

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. キャスティ 21 コアゾーン (A ブロック) 整備事業 (マルイト株)

事業完了時期	平成 26 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	国際都市・姫路の魅力をより高める、上質でアメニティ溢れる都市型ホテルを整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年 8 月に着工したホテルモントレ姫路は、平成 30 年 3 月 23 日にグランドオープンを迎えた。今後は、姫路駅前の主要施設として、日本国内にとどまらず海外からの観光客の受皿となり、来街者増加への寄与が期待される。

###### ②. キャスティ 21 コアゾーン (B ブロック) 整備事業 (エミス株)

事業完了時期	平成 26 年度～平成 27 年度【済】
事業概要	シネマコンプレックスを核とした商業施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年 7 月 24 日の商業施設 (テラッソ姫路) オープン以降、通行量が増加するなど、一定の集客効果が認められる。また、調査当日は、荒天であったが、屋内施設ということもあり、安定した集客効果を示している。 [歩行者等通行量] (調査地点：テラッソ姫路北西) 9,000 人 (H28. 4. 29) → 10,446 人 (H29. 4. 29) 今後も引き続き、商店街をはじめ、街なかの魅力を高めるとともに、情報発信を強化することで、施設の来客者を街なかへ誘引する取り組みを行う必要がある。

### ③. キャスティ 21 コアゾーン (C ブロック) 整備事業 (学神戸滋慶学園)

事業完了時期	平成 26 年度～平成 30 年度【実施中】
事業概要	医療系専門学校などを整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 7 月にフィットネスジムの共用が開始され、平成 30 年 4 月 1 日には、姫路医療専門学校が開校した。残る健康生きがい開発棟（高齢者住宅・保育所・クリニック）についても、平成 30 年秋頃に竣工し、供用開始する予定である。

### ④. コミュニティサイクル事業 (姫路市)

事業完了時期	平成 28 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	姫路駅前や姫路城周辺など都心部で、自由に乗り降りできるレンタサイクル（姫ちゃり）を導入する。
事業効果及び進捗状況	平成 26 年度からの社会実験を経て、平成 28 年 7 月 1 日から本格運用を開始した同事業では、平成 29 年 12 月 25 日にサイクルポートを 4 箇所増設し、20 箇所のサイクルポートが稼働している。平成 29 年度は、46,111 人（86,323 回）が利用した。街なかの回遊性と周辺エリアへの利便性の向上を目指し、引き続き同事業に取り組んでいく。

#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

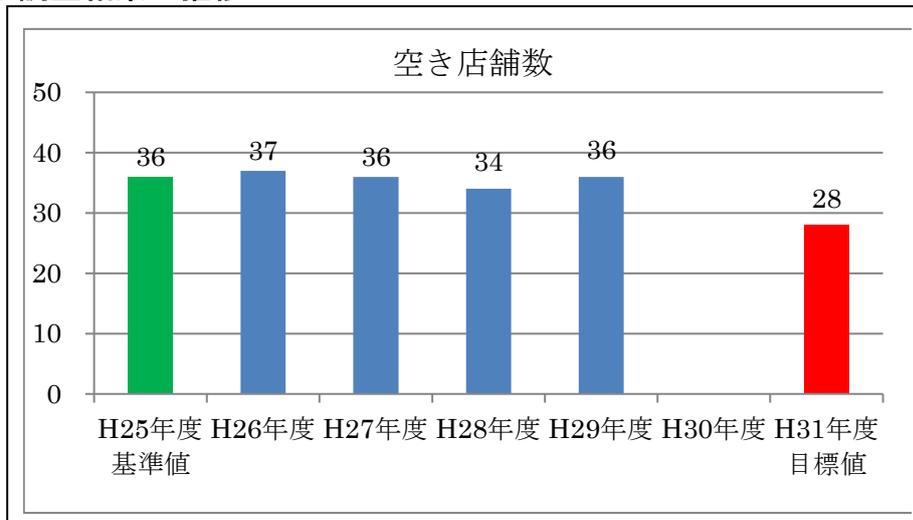
平成 29 年度の数値は、前年と比較して大きく減少している。要因としては、姫路城のグランドオープンから 2 年が経過し、集客効果が落ち着いたことが考えられる。また、調査当日は午後から急な豪雨が発生したこともあり、屋外の調査地点では、前年の 8 割程度まで減少した地点があった。しかし、中心市街地内の大型商業施設周辺の調査地点では、荒天にもかかわらず増加している地点もあり、平成 29 年度は荒天による影響が大きかったと推察される。

しかし、依然目標値との差が大きく、計画記載の主要事業についても一定の目途がつきつつあることから、大幅な改善は見込めない状況になりつつある。

今後は、主要事業に加え、大手前通り（十二所前線以北）再整備事業などのハード事業のほか、平成 30 年 9 月完成を目指す大手前通り南工区（十二所前線以北～国道 2 号線）歩道の賑わい空間を活用した社会実験や、商店街にぎわい創出事業などのソフト事業、更には、平成 30 年度に商店街や大手前通りに公衆無線 LAN を整備するなどの新たな取り組みも含め、総合的に計画記載事業を推進し、市民や観光客の利便性や回遊性の向上に向けてより一層取り組んでいきたい。特に、回遊性向上は重要な課題であり、街なかにぎわいイベント事業や商店街にぎわい創出事業において新たな取り組みを実施したい。

「空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P80～P82 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H25	36 店舗 (基準年値)
H27	36 店舗
H28	34 店舗
H29	36 店舗
H30	
H31	28 店舗 (目標値)

※調査方法：現地調査（毎年3月末）

※調査月：平成30年3月末実施、4月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内15商店街

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地商店街空き店舗対策事業（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）

事業完了時期	平成13年度～平成31年度【実施中】
事業概要	中心市街地商店街内の空き店舗への出店者に対し、家賃補助等を行う。また、外部関係者と連携し、モデル商店街でのテナントミックスやチャレンジショップ実現に向けた事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	創業者に対する支援を引き続き実施しているが、平成29年度は退店数が新規出店数を上回り、空き店舗数が増加した。ただし、重点エリアである、二階町商店街（モデル商店街として支援する）や西二階町商店街では、外部関係者との連携や、店舗間、商店街間での連携など、新たな活動の成果もあり、当該商店街では着実に空き店舗数は減少している。

②. 街なか起業家支援事業（姫路市）

事業完了時期	平成27年度～平成31年度【実施中】
事業概要	街なかにおける起業家に対する支援事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	中心市街地商店街以外で創業等により新たに店舗を出店する方に対し、内装工事費等の一部を助成する「まちなか創業支援制度」を継続して実施。平成29年度は、創業者3名に対し支援するなど、今後の、街なかの魅力向上へ向け取り組みを進めている。

## ●目標達成の見通し及び今後の対策

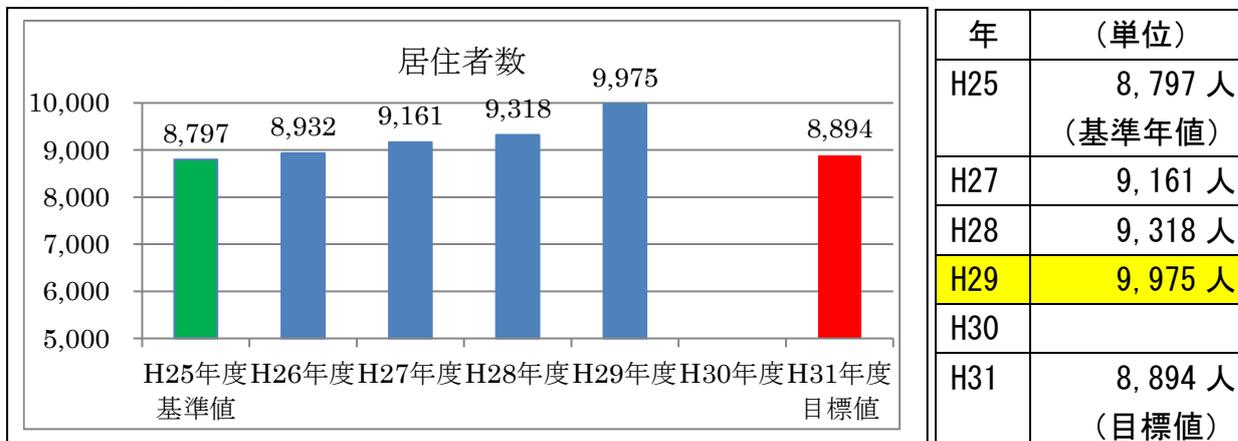
「中心市街地商店街空き店舗対策事業」や「まちなか創業支援制度」により、商店街だけでなく、それ以外の地域での街なか創業者に対しても支援するなど、商店街の活性化や街なかの魅力づくりに向けた取り組みを行っている。昨年度は、空き店舗数に改善が見られたが、今年度は退店数が、新規出店数を上回り数値は悪化した。新規出店店舗に対する主要事業を活用した支援件数は堅調であるが、支援期間が終了した後に退店する店舗や、長年にわたり空き店舗のまま、テナントが入る様子のない店舗などもあり、空き店舗数の改善は思うように進捗していない。

その一方で、モデル商店街として支援する二階町商店街では、兵庫県立大学を中心とした外部関係者と連携することで、新たな活動が生まれ、新規店舗の開店等に繋がっている。また、平成29年度は中心市街地以外の商店街等で空き店舗をリノベーションする手法によりエリア再生に向けて新たな取り組みを行う民間事業者への支援を始めており、同様の手法を中心市街地でも活用できないか検討を進めている。更に平成30年度から、創業時における広告費の支援を開始しており、こうした新たな取り組みにも努めていきたい。

今後も、「新陳代謝の促進による街なか（商店街）の活性化」の目標のもと、計画に記載の事業だけではなく、より一層、各種関係団体との連携を図りながら、若くてやる気あふれる起業家や繁盛店づくりを引き続き支援し、各店舗だけでなく商店街全体の魅力を高め、空き店舗数の改善に向けて取り組んでいきたい。

「居住者数」※目標設定の考え方基本計画 P83～P85 参照

## ●調査結果の推移



※調査方法：中心市街地内の住民基本台帳登録人口（毎年3月末）

※調査月：平成30年3月末実施、5月とりまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内居住者

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 駅南土地区画整理事業（姫路駅南西地区）（土地区画整理事業）（姫路市）

事業完了時期	平成19年度～平成33年度【実施中】
--------	--------------------

事業概要	姫路駅南西部の連立事業による旧鉄道用地等を都心部にふさわしい計画的な市街地として再生することを目的に、都市基盤施設の整備改善を行い、宅地の利用増進を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度は、1 号公園予定地内の支障物件の移転交渉を順調に進めた。平成 30 年度は、引き続き支障物件の移転交渉を進めながら、順次区画道路の築造工事等を進めていく。また、当該事業とともに、他の姫路駅周辺整備事業等により、当該事業エリア周辺で、民間マンションの建設が引き続き進むなど、街なか居住人口の増加が図られている。

## ②. 姫路駅周辺土地区画整理事業（姫路市）

事業完了時期	平成元年度～平成 33 年度【実施中】
事業概要	JR 姫路駅を中心とする南北市街地の一体化を図る交通体系の確保、都市計画道路、公園、河川等の公共施設の整備改善を行い、新都心拠点としてふさわしい街区を形成し、多様な機能立地を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度は、当該事業エリア東部において、内環状東線四車線化（平成 32 年度予定）に向けて、仮換地指定の変更などにより支障物件の移転を順調に進めてきた。平成 30 年度は、支障物件の移転交渉を引き続き進めるとともに、事業完了に向け、関連道路の築造工事等を進める。また、当該事業の進行により、エリア内に民間マンションの建設が引き続き進むなど、街なか居住人口の増加が図られている。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

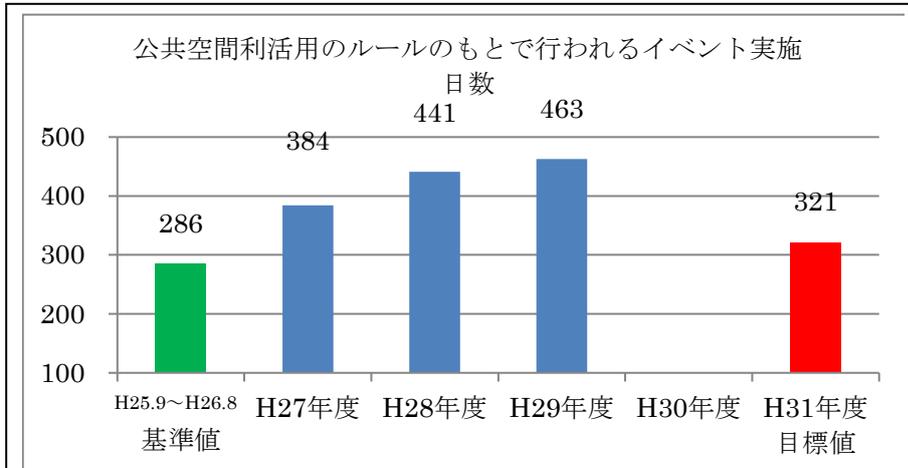
駅南土地区画整理事業や姫路駅周辺土地区画整理事業の他、キャスティ 21 コアゾーンの整備事業等により、街なか居住の魅力が向上することで、引き続きエリア内で民間マンションの建設が進むなど、主要事業の進捗にあわせて、居住人口も順調に増加しており、目標達成は可能だと思われる。更には、義務教育学校である白鷺小中学校が地域に設置され、新たな地域の魅力として居住者の増加に寄与するものと考えている。

今後も、商店街をはじめ、各商業施設の魅力を高め、賑わいを創出するとともに、街なかを回遊してもらう取り組みを図ることで、中心市街地内全体に効果を波及させ、さらに実績を伸ばしていきたい。

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」

※目標設定の考え方基本計画 P86～P88 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H25.9 ~H26.8	286 日/年 (基準年値)
H27	384 日/年
H28	441 日/年
H29	463 日/年
H30	
H31	321 日/年 (目標値)

※調査方法：施設管理者調査（報告）等（毎年3月末）

※調査月：平成29年3月末実施、4月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：姫路駅北にぎわい交流広場（姫路駅北駅前広場）、大手前公園、中心市街地内15商店街  
（各エリアで行われるイベント実施日数を足し合わせる）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 姫路駅北駅前広場活用事業（姫路市、市民団体、商店街等）

事業完了時期	平成27年度～平成31年度【実施中】
事業概要	市民による姫路駅北駅前広場（姫路駅北にぎわい交流広場）の積極的な活用（継続的なイベントの開催）を促進することで、街なかへの集客力・回遊性の向上につなげる。
事業効果及び進捗状況	駅前広場が市民・観光客の憩いとくつろぎの場であるとともに、イベント等で活用できる空間であることが広く周知されてきたことにあわせ、第3回全国まちなか広場賞で「大賞」を受賞し、知名度も高くなったことで、年間を通じて多彩なイベントが行われ、依然として高い稼働率で広場の活用が図られている。（平成28年度304日→平成29年度317日）

②. 商店街にぎわい創出事業（姫路市、商店街、民間等）

事業完了時期	平成27年度～平成31年度【実施中】
事業概要	商店街等が、商店街の活性化のために実施する賑わい創出事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	商店街に対する各種支援メニューに加え、市民団体等が商店街で賑わい創出のためのソフト事業を実施する場合にも支援することで、商店街の魅力向上を図る。市民団体が商店街でハロウィンパレードのよう

	<p>な買い物客以外の来街者も参加できるイベントを実施するなど、今までになかった新しい試みも増えており、商店街の賑わい創出につながっている。</p> <p>[商店街等に対する各種支援件数] (平成 29 年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント事業 10 件</li> <li>・ まちなか会場賑わいづくり事業 2 件</li> </ul>
--	---

### ③. 大手前通り（十二所前線以北）再整備事業（姫路市）

事業完了時期	平成 27 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	姫路駅から姫路城を結ぶ大手前通り（十二所前線以北）を再整備することで、駅からお城までの連続した高質空間を創出する。
事業効果及び進捗状況	<p>平成 29 年 3 月に現地着手した南工区については、平成 30 年 9 月の完成に向けて工事を進めている。引き続き北工区について、平成 30 年に工事着手し、平成 31 年度の事業完了に向け、工事を進める。南工区の工事完了後、整備された商業賑わい・活用ゾーンの利活用に向け、活用主体の組織づくりに官民一体となって取り組む。</p> <p>今後、活用主体の組織づくりを進め、姫路駅北駅前広場や周辺商店街とも連携し、タウン・エリアマネジメントの運営に向けた仕組みづくりや街なかの回遊性向上に向けた取り組みを推し進めていく。</p>

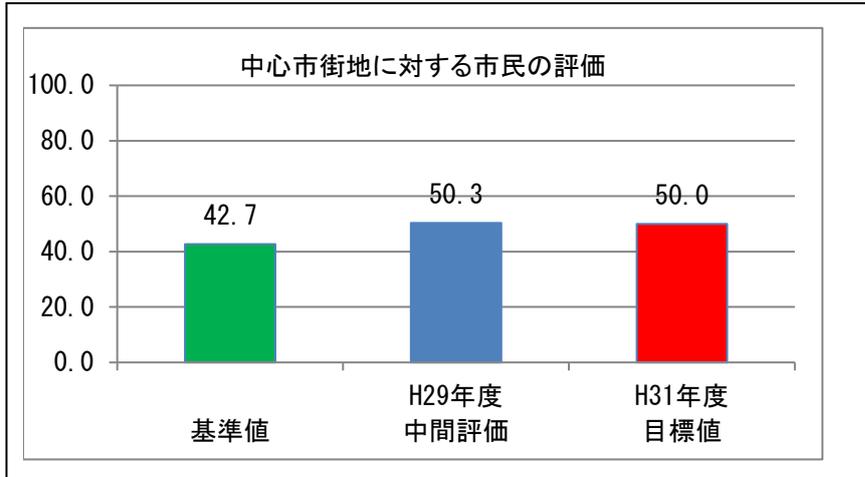
#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」については、姫路駅北駅前広場の利活用が定着し、週末だけではなく平日においても、音楽ライブや物産展など、多彩なイベントが行われ、依然として高い稼働率で広場の活用が図られている。また、商店街においても季節に合わせたイベントやイルミネーションなど従来からの定型的なイベント以外の新たな取り組みも始まっており、目標達成は可能だと思われる。

今後も、駅前広場を核として、街なかのにぎわい創出と回遊性の向上及び滞在時間の増加を目指すとともに、タウン・エリアマネジメントの運営に向けた組織・人材育成を戦略的に進めるべく、大手前通り再整備事業の完了を見据え、街なかの活用主体の形成等について、中心市街地活性化協議会をはじめ、街なかの関係者と引き続き協議していきたい。

「中心市街地に対する市民の評価」 ※目標設定の考え方基本計画 P89～P90 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H26	42.7% (基準年値)
H29	50.3% (中間評価)
H31	50.0% (目標値)

※調査方法：市内在住の20歳以上の者から、無作為抽出した対象者に郵送方式によりアンケート調査を実施

※調査期間：平成29年8月21日から平成29年9月4日まで

※調査主体：姫路市

※調査対象：3,000人（中心市街地内居住者1,500人、中心市街地外居住者1,500人）

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成29年度に実施した調査（中間評価）においては、調査対象者3,000人に対して、有効回答は1,113人であり37.1%の回答率であった。結果として、満足していると回答した割合は50.3%であり、目標値を上回った。中心市街地内の居住者だけでみれば、6割近くが「満足している」又は「どちらかという満足している」と回答している一方、中心市街地外の居住者からは、4割程度にとどまるとともに、「どちらともいえない」という回答が3割を超え、大きな割合を占めた。

今後も、計画に記載の事業を着実に推進し、中心市街地内の居住者だけではなく、市民から更なる評価が得られる街なかを目指し、取り組んでいきたい。